平成３０年３月１日

会員各位

協会だより－303(3月号)

JCRA (Japan Catalyst Recovering Association)
触媒資源化協会

トピックス：

- 第２３５回月例会（講演会・新年会）は小林圭太様・芦田拓郎様の貴重な講演があり５５名の出席で無事終了いたしました。
- 第３６回 JSCRA 会（協会ゴルフ大会）は総武 CC 総武コースで開催します。
  開催日：平成３０年３月２３日（金）
- 平成３０年度の年会費請求書をお送りいたします。

一．協会よりのお知らせ
【実施済事項】
【予定事項】
二．第２３５回月例会の報告
三．事務局より（三月度の予定）
四．【雑学】都内近代産業発祥の地めぐり

１．協会よりのお知らせ

[実施済事項]

① **協会だより－３０２（２月号）** をメール＆郵便で送信（1/30）

② **第２３５回月例会(講演会・新年会)の開催**

月　日：平成３０年２月８日(木)14：30～

会　場：如水会館(千代田区神田一ツ橋)

講演会：１．堺化学における各種波長変換材料の開発状況について

講師：小林　恵太様（堺化学工業株式会社）

２．金属酸化物の化粧品での応用とその液状分散体

講師：芦田　拓郎様（堺化学工業株式会社）

新年会：17：30 より開催

[予定事項]

① 第六回運営委員会
日　時：平成３０年３月１５日（木）１６；００～１７；００
場　所：堺化学工業㈱東京支店（友泉岩本町ビル 2 階）
議　題：平成３０年度（第４３期）定期総会に向けて

② 第一回役員会
日　時：平成３０年３月　　日１５；００～１７；００
場　所：協会事務所所在地（新橋駅前ビル１号館６０１（BISTATION 内）
議　題：平成３０年度（第４３期）定期総会に向けて

③ 第３６回 JSCRA 会（協会コンペ）の開催
日　時：平成 30 年３月２３日（金）
場　所：総武カントリークラブ総武コース
備　考：1/25（木）開催予定でしたが 1/22～1/23 にかけて大雪が降り、延期していましたが、一月予定であったコースの総武カントリークラブ総武コースで開催いたします。

２．第２３５回月例会の報告

２月８日（木）如水会館オリオンルームで講演会を開催した。参加者は５５名、和氣　収会長（JX 金属㈱）の挨拶に続いて小林恵太様、芦田拓郎様（両氏とも堺化学工業㈱）の講演が始まった。最初の司会は武津雄太さん（アミタ㈱）、次の司会は佐藤辰男さん（相田化学工業㈱）が担当した。　聴講記は津田　太さん（安田薬品㈱）にお願いしました。

和氣　収会長

聴講記

第２３５回月例会の講演会では昨年の第２３４回月例会（一泊研修会）でもお世話になった堺化学工業㈱殿に御講演頂きました。

小林恵太様

第一講演では、小林様より「各種波長変換材料の開発状況について」という内容で、世の中の光る材料がなぜ光るのかということ、原料にあえて不純物（他元素）をドープすることで光の吸収のピークを移動させることにより、光る色を変えることができることなどを教えて頂きました。バンド構造、バンドギャップなど難しい内容もありましたが、身近な発光体を例に分かりやすくお話しくださりました。特に面白い材料だと感じたのは応力発光体と呼ばれる、物理的な力を与えることで光る材料です。セメントなどのひび割れ等の検査に使用できるのではと想定されていたところ、パリコレでの衣装に使用され、更にはオニツカタイガーのスニーカーのアウトソールに採用されたというのも面白い話でした。

第二講演では、芦田様より「金属酸化物の化粧品での応用と、その液状分散体」という内容でした。日焼け止めクリームなどには紫外線遮蔽剤として金属酸化物が使用されています。金属酸化物には触媒活性がありますが、表面処理（シリカ処理）を施すことによって

活性を低減し、化粧品での粘度や色変化を抑えているそうです。また、堺化学工業㈱殿では高密度シリカ処理技術を持たれており、金属酸化物からの金属イオンの溶出低減や高い不活性化・不溶化を実現しているとのことでした。また、飛散しやすい粉体材料を、取り扱いやすいように液体に分散させる技術もお持ちとのことで、化粧品のみならず様々な分野で応用されていくのではないかと感じました。

芦田拓郎様

やがてこれらの技術が社会を支える時代となった時、これらに使われる材料が貴重な資源となって、我々が循環させることになるかもしれません。新しい技術に使われる聞きなれない材料を知り、今までにない角度で物事を見られる貴重な機会となりました。　　記：津田　太（安田薬品㈱）

講演会を終了して、講師を囲んで左より
・新﨑俊光運営委員
・小林尚道専務理事
・佐藤辰男月例幹事
・芦田拓郎講師
・小林恵太講師
・和氣　収会長
・武津雄太月例幹事
・前田昭博運営委員
（敬称略）

講演会終了後、ペガサスルームに移動し、１７時３０分より、経済産業省製造産業局素材産業課の岩崎政典企画官、町田宏之課長補佐、喜瀬逸係長をお迎えし新年会を開催した。

川上好武運営委員長（ミヤマ㈱）の司会で宴が始まった。和氣会長の開会の挨拶、岩崎政典企画官の祝辞、岩崎信男副会長（新興化学工業㈱）の乾杯で宴たけなわとなった。

和氣会長の開会挨拶

岩崎政典企画官の祝辞

岩崎信男副会長の乾杯

林光蔵副会長による中締め

皆様の懇談が続きお別れがたき時間で有りましたが、林副会長による、触媒資源化協会の益々の発展、参加いただいたお会社の益々のご発展、参加の皆様のご健康を祈念して三本締めによる中締めとなった。参加の皆様有難うございました。
また、司会担当の武津雄太さん、佐藤辰男さん、川上好武運営委員長本当にありがとうございました。

左より司会をされた武津雄太さん、佐藤辰男さん、川上好武運営委員長の皆様

３．事務局より（３月度の予定） ３月出勤予定：10 日間、赤・個人予定あり。

日	月	火	水	木	金	土
2/25	2/26	2/27	2/28	1	2	3
×	○ (M)	○	×	○	×	×(t)
4	5	6	7	8	9	１０
×	○	× (M)	×	○	×	× (M)
１１	１２	１３	１４	１５	１６	１７
×	×	○	× (C)	第６回運営委員会	×	× (M)
１８	１９	２０	２１	２２	２３	２４
× (M)	×	○	春分の日	○	３６回 JSCRA 会	×
２５	２６	２７	２８	２９	３０	３１
×	×	○	× (G)	○	×	×

４.【雑学】都内近代産業発祥の地めぐり

東京の中央区（旧・日本橋区、京橋区）は、明治政府が西欧に追い付くために近代技術や近代産業を導入し、遡るに近代産業発祥の地が目白押しの地区である。

（１）鉄道・新橋停車場　港区新橋２丁目（現・JR 新橋駅前）

新橋駅汐留口にある、鉄道唱歌の歌碑とＣ５８機関車の動輪。総武・横須賀線乗入れ（昭和 50 年）を記念、設置する。

「1872（明治 5）年、新橋～横浜間、日本初の鉄道が開業され、新橋停車場（汐留）は東京の玄関口となりました。1914（大正 3）年、東京駅が開業されると、貨物専用の汐留駅となり、物流の大拠点になりました。」

鉄道唱歌「一、汽笛一声新橋を　はや我汽車は離れたり　愛宕の山に入りのこる　月を旅路の友として　二、右は高輪泉岳寺　四十七士の墓どころ　雪は消えても消えのこる　名は千載の後までも　三、窓より近く品川の　台場も見えて波白き　海のあなたにうすがすむ　山は上総か房州か・・・・」と歌われている新橋はこの汐留の停車場です。

現在の新橋駅は開業時、烏森駅でした。そのため今でも南口は烏森口と名付けられています。旧新橋停車場は汐留シオサイトの開発により、汐留センタービルと松下電工ビルに囲まれた地に鉄道歴史資料室として 2003（平成 15）年４月、旧新橋駅が再建されています。

日比谷口を出、昭和通沿いに行き、第一京浜の交差点を渡ると、鉄道歴史展示室がある。

【所在地】東京都港区東新橋１丁目５番３号

【入場料】無料

（２）電信創業之地　中央区明石町 13 番地（都営明石町第二アパート 10 号棟の植え込みの中にある）

「電信創業記念碑の由来

明治２年９月 19 日（太陽暦 10 月 23 日）横浜裁判所と東京築地運上所内に設けられた「電信機役所」を結ぶ約３２キロメートルの電信線架設工事が開始され同年 12 月 25 日に業務を開始した。これが我が国における公衆電気通信の最初であ

る。この記念碑は、先駆者の業績を後世に伝える為、昭和 15 年に建立されたもので、昭和 53 年南南東約４０メートルの地点から当地へ移設されたものである。

電信創業之地　東京電信局跡　明治二年十二月二十五日開始

紀元 弐千六百年 逓信省」

（３）東京税関発祥の地　中央区明石町１４番地（料亭「治作」の門前というか蔦に囲まれた壁面の中に石碑がある。）

左：料亭「治作」の建物の左蔦の下に記念碑
右：記念碑

「史跡 運上所跡　東京税関発祥之地

江戸幕府は、慶応 3 年（1,867）に、江戸築地鉄砲洲明石町の一帯を外国人居留地と定め、この地に税関業務を行う運上所を設置しました。これが東京税関の始まりです。」

メトロ日比谷線の築地駅に戻り、北千住方面行きに乗車、二つ目の茅場町駅で下車します。

（４）電燈発祥の地

中央区日本橋茅場町 1-3-10 にあるビジネスホテル「トレストイン日本橋」（東電不動産の経営）正面の植え込みの中に石碑はあります。碑文の内容は以下の通りです。

「明治 20 年(西暦 1887 年) 11 月 21 日東京電燈会社がこの地にわが国初の発電所を建設し、同月 29 日から付近の日本郵船会社、今村銀行、東京郵便局などのお客様に電燈の供給を開始いたしました。これが、わが国における配電線による最初の電燈供給でありまして、その発電設備は直立汽缶と、３０馬力の横置き汽機を据付け、２０キロワットエジソン式直流発電機１台を運転したもので、配電方式は電圧２１０ボルト直流三線式

でありました。

昭和 62 年（西暦 1987 年）1 月これを建つ

東京電力株式会社」

（５）銀行発祥の地　中央区日本橋兜町 4-3 みずほ銀行兜町支店

ここは第一国立銀行として、渋沢榮一氏により設立された銀行発祥の地です。その後「㈱第一銀行」⇒「第一勧業銀行」と合併を繰り返し現在はみずほ銀行になりました。この建物の南側の壁面にプレートがはめ込まれています。

「銀行発祥の地　この地は明治 6 年 6 月 11 日わが国最初の銀行である第一国立銀行が創立されたところであります。昭和３８年６月建立」とあります。

（６）郵便発祥の地・日本橋郵便局　中央区日本橋１−１８−１

「郵便発祥の地、ここは、明治 4 年 3 月 1 日わが国に新式郵便制度が発足したとき、駅逓司と東京の郵便役所が置かれたところです。」

「駅逓司」とはつい最近の省庁名では郵政省に相当。「郵便役所」とは東京中央郵便局に相当。郵便局の南側の入口には郵便の父といわれる前島密の銅像があります。これは郵便創業９０周年を記念して昭和３６年に建てられたものです。

前島密は天保 6 年（1835 年）－ 越後国頸城郡津有村下池部（現在の新潟県上越市）に豪農、上野助右衛門の二男として生まれました。上越市には前島記念館が有ります。また１円切手の肖像として通用しています。

（７）東京商工会議所発祥の地　中央区銀座６丁目１７番

初代会頭は渋沢榮一で第一国立銀行の創設と共に、明治政府の伊藤博文、大隈重信の要請により、創設の旗振り役となった。碑文の内容は以下のとおりである。

「東京商工会議所発祥の地

明治維新の国是をふまえ 欧米諸国の制度文物を取り入れ 時の産業界の指導者が相携えて明治 11 年 3 月 12 日商工業発展のための総合的団体東京商法会議所（東京商工会議所の前身）を創立しその事務所をおいたのがこの地である。ここには明治 24 年以来農商務省、次いで商工省が昭和 18 年まで所在し、明治・大正・昭和の 3 世代にわたって、日本産業発展のための官民協力の場ともいうべきところとなった。」

協会所在地の新橋を出発地として、東京メトロ銀座線、日比谷線、都営浅草線などの地下鉄を利用しただけで、7 箇所の発祥の地を巡ることが出来ます。特に旧・日本橋区に産業発祥の地が集中していることは、明治時代から日本橋区が経済・産業の中心地でありました。

参　考：明治 11 年（1878）施行の郡区町村編制法に基づき東京 15 区が誕生しました。

昭和 22 年（1947）日本橋区は京橋区と合併して中央区となりました。

明治 11 年に誕生したのは、・麹町区(現・千代田区)・神田区(現・千代田区)・日本橋区（現・中央区)・京橋区現・中央区)・芝区(現・港区)・麻布区(現・港区)・赤坂区(現・港区)・四谷区（現・新宿区)・牛込区(現・新宿区)・小石川区(現・文京区)・本郷区(現・文京区)・下谷区(現・台東区)・浅草区(現・台東区)・本所区(現・墨田区)・深川区（現・江東区）の 15 区です。ほぼ現在の JR 山手線の内側に所在し、江戸時代より発展した隅田川を挟んだ浅草・本所・深川が含まれました。

昭和 7 年（1932）周辺の郡部を再編制した 20 区

［旧荏原郡］　－ **品川区**・荏原区・**目黒区**・大森区・蒲田区・**世田谷区**

［旧豊多摩郡］ － **渋谷区**・淀橋区・**中野区**・**杉並区**

［旧北豊島郡］ － **豊島区**・滝野川区・**荒川区**・王子区・**板橋区**

［旧南足立郡］ － **足立区**

［旧南葛飾郡］ － 向島区・城東区・**葛飾区**・**江戸川区**

を加え 35 区となりました。

昭和 22 年（1947)、35 区を再編制して現在の 23 区(特別区)が誕生しました。

【文責：専務理事】